

下連雀

アート & カフェ

まちと空き家がつながる日

この会場の土地及び建物は、三鷹市が令和5年4月に、地域のために役立てて欲しいという意向のもと、以前三鷹市に居住していた方から寄贈を受けたもの（寄贈物件）で、これから地域に開かれた新たな場所へと姿を変えていきます。今日はその始まり、「まちと空き家がつながる日」。

この物件がある下連雀一丁目のまちや、三鷹市が考える事業の方向性について、紹介します。

記憶と共にまちを知る

寄贈物件がある下連雀一丁目周辺

寄贈物件がある下連雀一丁目周辺は、江戸時代に開墾された農村地帯でしたが、大正時代の関東大震災による都心からの郊外移転や昭和初期の中央線三鷹駅の開設などによって宅地化が進み、現在は閑静な住宅街となっています。たくさんあるまちの地域資源を、寄贈者の記憶をもとに見ていきます。

三鷹市立第四小学校

昭和50年前半は第四小学校屋上から晴れた日には富士山が見る事ができました。

小学校正門前には文房具屋さん、裏門にはお米屋さんが有りました。

連雀仲町商店街

連雀仲町商店街には、大衆食堂・文房具屋・駄菓子屋・お団子屋さんなどが有りました。



出典：三鷹市教育委員会

山本有三記念館

山本有三記念館は図書館として利用されていました。



玉川上水

玉川上水で男の子はザリガニなどを取って遊んでいました。



出典：三鷹市教育委員会

井の頭公園

井の頭公園では、ホタルを見る事も出来ました。



出典：三鷹市教育委員会

寄贈物件

「下連雀第一町会」が活動しています



下連雀第一会館を拠点に、下連雀第一町会が活動しています。今年で設立68年を迎えます。様々な人との交流の「わ」を広げ、お互いが協力して助け合う、そんな町会です。

地域行事、情報発信、防犯、防災の4つの柱で活動しています



9月の町会秋祭り



防災ミニ

下連雀第一町会HP
お問い合わせ: rinsen-daiichi@gmail.com



写真は全て下連雀第一町会提供

次は、この寄贈物件をこれからどのように活用するのか、三鷹市の考え方を紹介します。

三鷹市の考え方

寄贈物件を活用した 事業の基本的な考え方

寄贈物件が所在する三鷹駅前周辺の地域は、太宰治文学サロンや山本有三記念館をはじめ、芸術・文化の拠点となる施設が点在しています。また、近くには、三鷹市立アニメーション美術館（三鷹の森ジブリ美術館）や複数のアニメーション制作会社も所在しています。さらに、学校を核とした地域づくりにおいて先駆的な役割を果たしている連雀学園三鷹市立第四小学校も近くにあり、学校・地域・家庭のつながりが強い地域でもあります。このような地域特性を生かし、将来が期待される若手クリエイターを支援するシェアハウス事業を展開し、居住者が地域とつながり、ともに成長することを通して、まちの活性化につなげていきたいと考えています。



◀ 寄贈物件の外観

三鷹市では、この寄贈物件を活用した事業の方向性や施設の機能、建物のゾーニングなどをまとめた「基本的な考え方」を策定しました。この「基本的な考え方」は、三鷹市と NPO 法人三鷹ネットワーク大学推進機構が共同設置するシンクタンク組織「三鷹まちづくり総合研究所」に置かれた研究会の研究成果を踏まえて三鷹市が策定したものです。ここで行う事業は、将来的な空き家の利活用も視野に入れたモデル事業としても位置づけています。

事業の方向性

クリエイターのスタートアップを支援する場としてのシェアハウス*

この物件を活用し、将来活躍が期待される若者（クリエイター）のスタートアップを支援する場としてシェアハウス事業を展開します。実施にあたっては、芸術・文化を通したまちづくりの裾野を広げた取り組みにするとともに、「暮らす」「つくる」「つながる」の3つの機能を有する地域に開かれた創造と交流の拠点となることを目指します。

*シェアハウス | 自室以外にも共同利用できる共有スペースを持った賃貸住宅のこと

3つの機能とゾーニング

「暮らす」「つくる」「つながる」の機能を有する創造と交流の拠点

3つの機能を、それぞれゾーンに落とし込んで整備をしていきます。各機能が分断されるのではなく、融和しながらまちに開かれた拠点化を目指します。

「暮らす」>> 暮らしゾーン

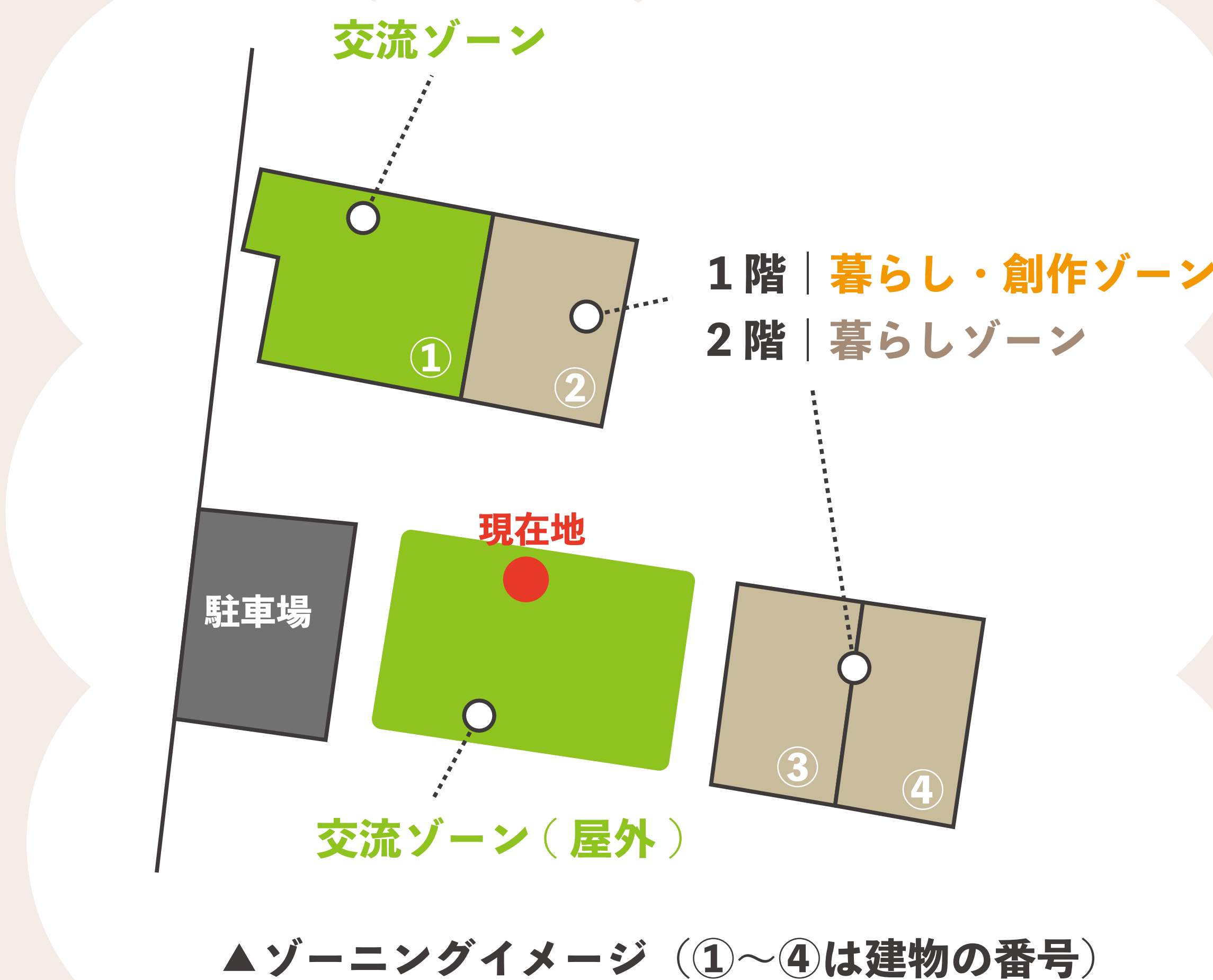
活躍が期待される学生や卒業後の若手クリエイターなど「クリエイティブ人財」の活動が軌道に乗るまでのスタートアップの場として、低廉な家賃で生活できるシェアハウスを提供します。

「つくる」>> 創作ゾーン

クリエイティブ人財が、居住スペースや創作スペースを共有し、モノづくりが行える環境を整備することで、創造と交流を通した新たな価値が生まれる場を創出します。

「つながる」>> 交流ゾーン

居住者や地域住民など「人と人」や「人と地域」がつながる（交流する）場として「地域の縁側」のような居心地の良い空間を創出します。

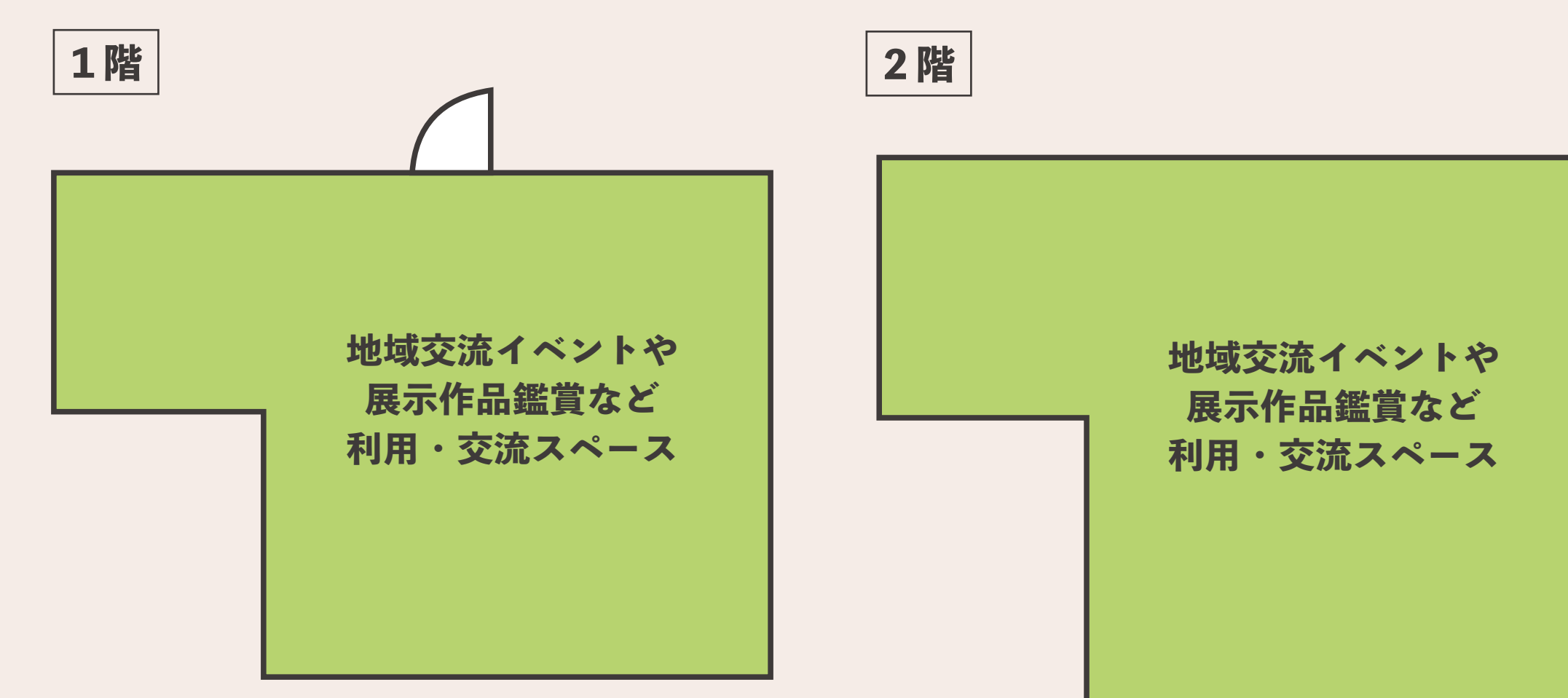


建物ごとの活用イメージ

「暮らす」「つくる」「つながる」の機能を落とし込んだ4棟の建物

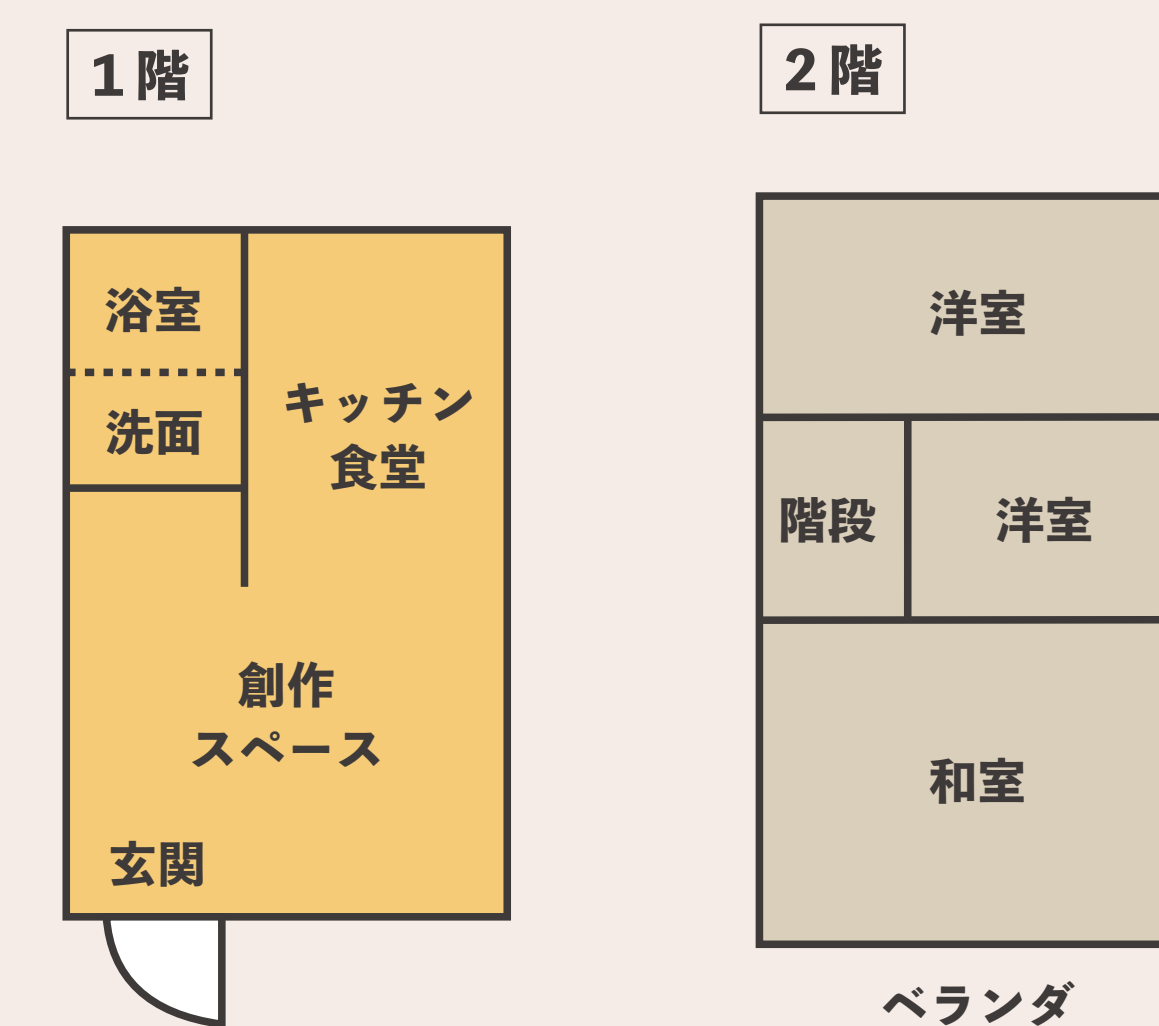
敷地内には4棟の建物が建てられています。これらを改修して「暮らす」「つくる」「つながる」の機能を落とし込みます。クリエイター人財は合計6人の居住を想定しています。今後具体的な活用イメージを検討していきます。

建物① | 交流棟



作品展示や台所を活用したカフェ機能を備え、地域交流イベントや展示作品鑑賞などを通じて、居住者や近隣住民が気軽に利用・交流できるスペースとして整備します。

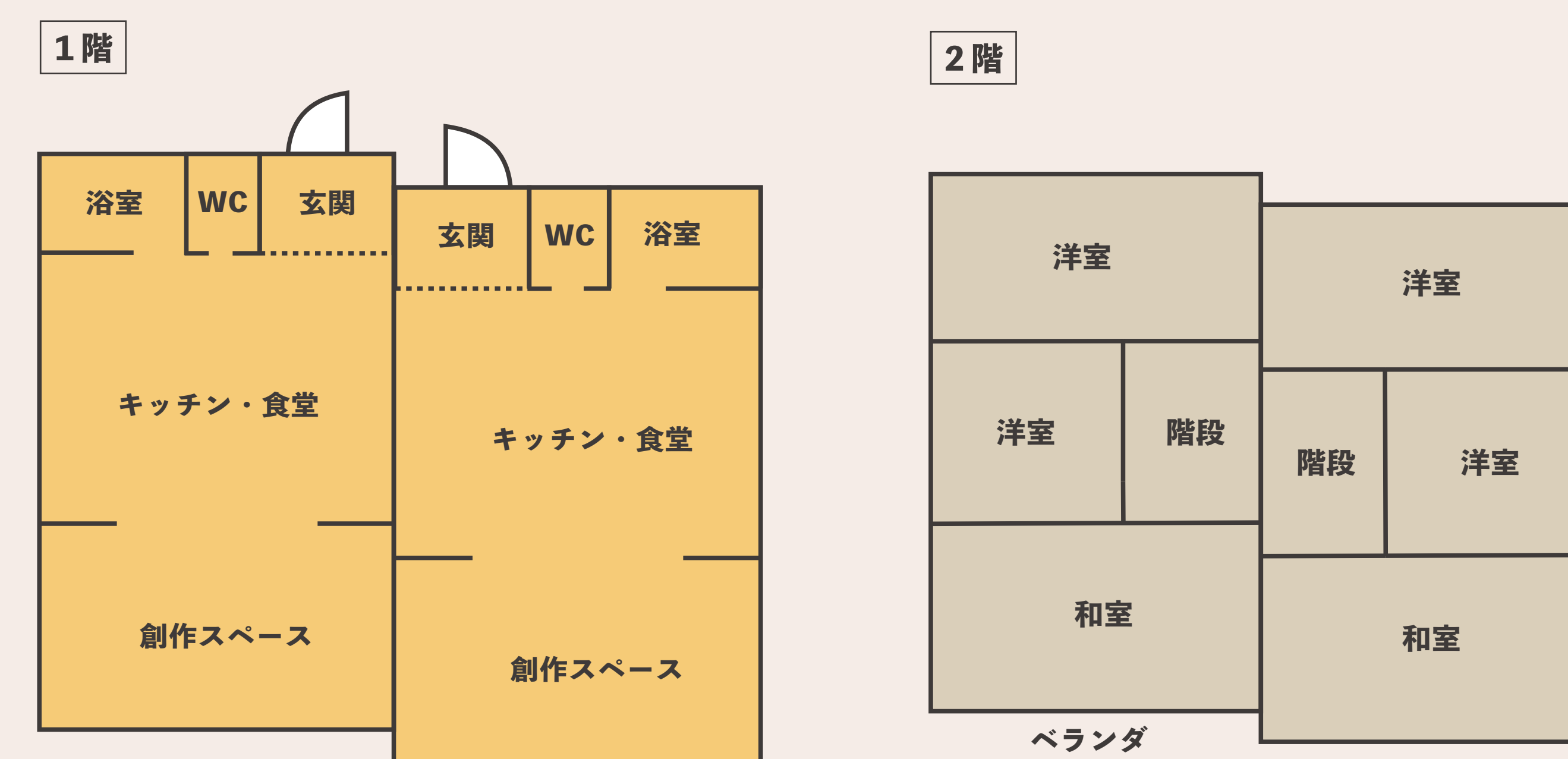
建物② | シェアハウス棟



1階
キッチン、浴室、トイレを残しつつ、居間を創作スペースとします。

2階
2階に2人ずつ、合計6人のクリエイティブ人財が暮らす居室を整備します。また、共有スペース（ラウンジ）を設けます。

建物③④ | シェアハウス棟



※活用イメージは「基本的な考え方」策定時のものです。今後の検討状況により変更する場合があります。

意見募集

未来妄想図

できたらいいな&期待すること

「交流ゾーン」でできたらいいなと思うことを教えてください。また、今回の寄贈物件活用プロジェクトに期待することを教えてください。それぞれ、ポストイットに書き出して、このパネルに貼り出してください。（1つのポストイットには1つのことを書いてください）交流棟、屋外交流ゾーンでできたらいいな、は吹き出しに、期待することは四角の枠内に貼り出してください。

「屋外交流スペース」でできたらいいな

交流棟

屋外交流ゾーン

「交流棟」でできたらいいな

寄贈物件活用プロジェクトへの期待